

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-243348

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月11日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

H 0 4 N 5/92

G 1 1 B 20/10

H 0 4 N 5/91

5/937

識別記号

3 0 1

F I

H 0 4 N 5/92

G 1 1 B 20/10

H 0 4 N 5/91

5/92

5/93

C

3 0 1 Z

H

H

C

審査請求 未請求 請求項の数15 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号

特願平9-47815

(22) 出願日

平成 9 年 (1997) 3 月 3 日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 神門 俊和

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

(72) 発明者 米野 潤一

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

(72) 発明者 久野 良樹

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

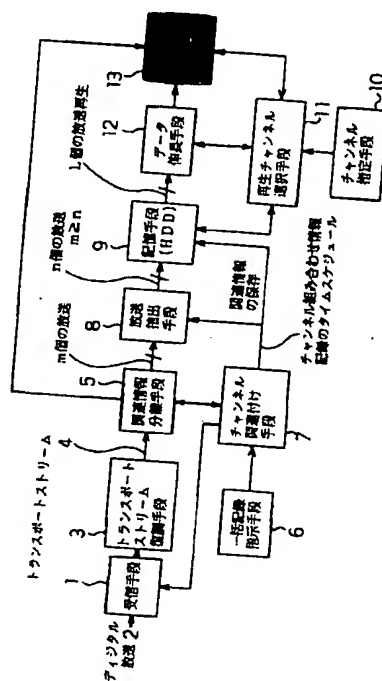
(74) 代理人 弁理士 松田 正道

(54) 【発明の名称】 マルチチャンネル記録装置、及びマルチチャンネル再生装置

(57) 【要約】

【課題】 複数のチャンネルによるデジタル放送の特定の番組を短時間で記録することが出来ないと言う課題。

【解決手段】 複数のチャンネルの各番組を一括して記録するためのチャンネル間の関連情報を獲得する関連情報分離手段5と、一括して記録するための一括記録指示をする一括記録指示手段6と、一括記録指示に基づいて、獲得された関連情報を調べ、各番組の中から一括記録の対象となる番組を決定するチャンネル関連付け手段7と、複数のチャンネルの各番組の中から決定された一括記録の対象番組を抽出する放送抽出手段8と、抽出された番組と関連情報とを記録する記憶手段9と、記録データの再生指示を行う再生チャンネル選択手段11と、再生データを表示する表示手段13等を備える。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数のチャンネルの各データの全部又は一部を一括して記録するための前記チャンネル間の関連情報を獲得する関連情報獲得手段と、  
前記一括して記録するための一括記録指示をする一括記録指示手段と、

前記一括記録指示に基づいて、前記獲得された関連情報を調べ、前記各データの中から前記一括記録の対象となるデータを決定する一括記録データ決定手段と、  
前記複数のチャンネルの各データの中から前記決定された一括記録の対象データを選択又は抽出する一括記録データ選択・抽出手段と、  
前記選択又は抽出されたデータと、前記関連情報の全部又は一部とを記録する記録手段と、を備えたことを特徴とするマルチチャンネル記録装置。

【請求項 2】 前記決定された一括記録の対象データは、相互に関連づけられて記録されることを特徴とする請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 3】 前記相互に関連づけられて記録されることは、前記一括記録の対象データの再生に際し、相互に時間的な同期を取るための時刻管理情報が付加されていることであることを特徴とする請求項 2 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 4】 前記関連情報は、前記一括記録の対象データが再生される際に、相互に時間的な同期を取るための時刻管理情報をも含むことを特徴とする請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 5】 前記複数のチャンネル及び前記関連情報を含む各トランスポートストリームの中から、特定のトランスポートストリームを選択して受信するチューナ手段を備え、  
前記関連情報獲得手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームから前記関連情報を分離して、獲得し、  
前記一括記録データ選択・抽出手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームに含まれる前記複数のチャンネルの各データを対象として前記一括記録の対象データを抽出することを特徴とする請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 6】 前記一括記録データ決定手段は、前記関連情報を参照し、前記トランスポートストリーム内の複数チャンネルの各放送が、同一番組をタイムシフトして放送するニャビデオオンデマンド放送であると認識した場合、記録対象となるべき所定のチャンネルの放送の記録のやり方を制御することを特徴とする請求項 5 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 7】 前記一括記録データ選択・抽出手段は、送信されてくる前記複数のチャンネルの各データの中から前記決定された一括記録の対象データを選択して受信し、

前記関連情報獲得手段は、前記送信されてくる前記複数のチャンネルに含まれている前記関連情報を、又は、前記送信経路とは別の経路で送信されてくる前記関連情報を獲得することを特徴とする請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 8】 前記一括記録データ決定手段は、前記関連情報を参照し、前記複数チャンネルの各放送が、同一番組をタイムシフトして放送するニャビデオオンデマンド放送であると認識した場合、記録対象となるべき所定のチャンネルの放送の記録のやり方を制御することを特徴とする請求項 7 記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 9】 前記記録手段は、前記記録データの格納のためにハードディスク装置を用いることを特徴とする請求項 1～8 何れか一つに記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 10】 前記一括記録データ決定手段は、前記記録手段による前記記録の最中に、前記関連情報の内容の時間的な変化に応じて、前記一括記録の対象となるチャンネルの数を増減することを特徴とする請求項 1～8 の何れか一つに記載のマルチチャンネル記録装置。

【請求項 11】 請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置により記録された前記各データが再生される際、前記マルチチャンネル記録装置により記録された前記関連情報を再生する関連情報再生手段と、  
前記再生された関連情報を利用して、前記記録された各データの中から再生すべきデータを指定するデータ指定手段と、  
前記指定されたデータを再生するデータ再生手段と、を備えたことを特徴とするマルチチャンネル再生装置。

【請求項 12】 前記関連情報再生手段により再生された関連情報を表示する関連情報表示手段を備え、  
前記データ指定手段は、前記表示された関連情報の中から再生すべき特定のチャンネルの選択を受け付けるチャンネル選択受付手段を有することを特徴とする請求項 11 記載のマルチチャンネル再生装置。

【請求項 13】 前記データ指定手段は、一つの番組について記録が完了しておらず記録の途中であるデータ又はチャンネルを認識し、その認識したデータ又はチャンネルを指定することを特徴とする請求項 11 記載のマルチチャンネル再生装置。

【請求項 14】 請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置は、更に前記複数のチャンネル及び前記関連情報を含む各トランスポートストリームの中から、特定のトランスポートストリームを選択して受信するチューナ手段を備え、

前記関連情報獲得手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームから前記関連情報を分離して、獲得し、  
前記一括記録データ選択・抽出手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリー

ムに含まれる前記複数のチャンネルの各データを対象として前記一括記録の対象データを抽出することを特徴とする請求項 11 記載のマルチチャンネル再生装置。

【請求項 15】 請求項 1 記載のマルチチャンネル記録装置における前記一括記録データ選択・抽出手段は、送信されてくる前記複数のチャンネルの各データの中から前記決定された一括記録の対象データを選択して受信し、

前記関連情報獲得手段は、前記送信されてくる前記複数のチャンネルに含まれている前記関連情報を、又は、前記送信経路とは別の経路で送信されてくる前記関連情報を獲得することを特徴とする請求項 11 記載のマルチチャンネル再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、マルチチャンネル記録装置及びマルチチャンネル再生装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、ビデオテープレコーダは一般に 1 つの放送番組を記録し、後にこれを視聴することを目的として利用される。

【0003】これに対して、ビデオテープレコーダに安価な構成を付加し、2 つの番組を同時に記録するマルチチャンネル記録方式が提案されている（特開平 2-67089）。

【0004】一方、デジタル放送では 1 つの中継器を用いて複数の番組を放送することで、従来のアナログ放送に比べチャンネル数の多い放送システムが構築され始めている。

【0005】このようなデジタル放送の多チャンネル性という特徴を生かしたサービスの一つとして、ニアビデオオンデマンド（またはタイムシフトサービスともいわれる）サービスが考えられている。

【0006】このようなニアビデオオンデマンドサービスは CATV（ケーブルテレビ）で実用化が進んでいる（テレビジョン学会誌 Vol. 49, No. 5 (1995) PP592-624）。

【0007】これらのことから、上記マルチチャンネル記録方式を、上記デジタル放送を対象としてデジタル記録可能な装置に適用して、1 つのチューナにて複数チャンネルを同時記録することが考えられている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のような従来のマルチチャンネル記録方式とデジタル放送を組み合わせた場合、以下のような課題を有していた。

【0009】即ち、デジタル情報受信機側において、送信されてくる複数のチャンネルの各番組間の関連性についての情報がそもそも存在しないため、ビデオテープ

レコーダを複数台用いて、それぞれの番組を個別に記録した場合と、本質的には大差がなく、送信されてくる信号がデジタル化されているにもかかわらず編集性、加工性は全く向上しないため、せっかく記録した複数の番組を効果的に活用できないという課題を有していた。

【0010】また、このような放送をビデオテープに記録する場合、記録転送速度が低く（約 14Mbps）1 つの中継機のデータ（約 30~40Mbps）をすべて記録することはできなかった。ここで、各種記録方式における従来の記録速度を参考までに記載すると次の通りである。即ち、D-VHS 方式の記録速度は約 14Mbps、DVC 方式の記録速度は約 30Mbps（Digital Video 25Mbps、Digital Audio 1.5Mbps、AUX, Subcode 等 3.5Mbps）、デジタル衛星放送の 1 トランスポンダ当たりの転送速度の場合、日本では約 29Mbps、ヨーロッパでは約 45Mbps である。

【0011】さらに、ビデオテープでは通常の再生時間に比べてそれよりも短い時間で再生する機能は実用化されているが、リアルタイムで送信られてくる番組を、その番組の放送開始から終了までの所要時間よりも短い時間で記録を完了することは出来ないと言う欠点があった。

【0012】本発明は、従来のこのような課題を考慮し、複数のチャンネルの各データを従来に比べてより一層効果的に活用出来る記録、再生が行えるマルチチャンネル記録装置及びマルチチャンネル再生装置を提供することを目的とする。

【0013】又、本発明は、従来のこのような課題を考慮し、複数のチャンネルの各データを従来に比べてより一層短時間で記録出来るマルチチャンネル記録装置を提供することを目的とする

【0014】

【課題を解決するための手段】請求項 1 記載の本発明は、複数のチャンネルの各データの全部又は一部を一括して記録するための前記チャンネル間の関連情報を獲得する関連情報獲得手段と、前記一括して記録するための一括記録指示をする一括記録指示手段と、前記一括記録指示に基づいて、前記獲得された関連情報を調べ、前記各データの中から前記一括記録の対象となるデータを決定する一括記録データ決定手段と、前記複数のチャンネルの各データの中から前記決定された一括記録の対象データを選択又は抽出する一括記録データ選択・抽出手段と、前記選択又は抽出されたデータと、前記関連情報の全部又は一部とを記録する記録手段とを備えたマルチチャンネル記録装置である。

【0015】請求項 5 記載の本発明は、上記複数のチャンネル及び前記関連情報を含む各トランスポートストリームの中から、特定のトランスポートストリームを選択して受信するチューナ手段を備え、前記関連情報獲得手

段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームから前記関連情報を分離して、獲得し、前記一括記録データ選択・抽出手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームに含まれる前記複数のチャンネルの各データを対象として前記一括記録の対象データを抽出するマルチチャンネル記録装置である。

【0016】請求項7記載の本発明は、上記一括記録データ選択・抽出手段は、送信されてくる前記複数のチャンネルの各データの中から前記決定された一括記録の対象データを10 選択して受信し、前記関連情報獲得手段は、前記送信されてくる前記複数のチャンネルに含まれている前記関連情報を、又は、前記送信経路とは別の経路で送信されてくる前記関連情報を獲得するマルチチャンネル記録装置である。

【0017】請求項11記載の本発明は、請求項1記載のマルチチャンネル記録装置により記録された前記各データが再生される際、前記マルチチャンネル記録装置により記録された前記関連情報を再生する関連情報再生手段と、前記再生された関連情報を利用して、前記記録された各データの中から再生すべきデータを指定するデータ指定手段と、前記指定されたデータを再生するデータ再生手段とを備えたマルチチャンネル再生装置である。

【0018】請求項12記載の本発明は、上記関連情報再生手段により再生された関連情報を表示する関連情報表示手段を備え、前記データ指定手段は、前記表示された関連情報の中から再生すべき特定のチャンネルの選択を受け付けるチャンネル選択受付手段を有するマルチチャンネル再生装置である。

【0019】請求項13記載の本発明は、上記データ指定手段は、一つの番組について記録が完了しておらず記録の途中であるデータ又はチャンネルを認識し、その認識したデータ又はチャンネルを指定するマルチチャンネル再生装置である。

【0020】請求項14記載の本発明は、請求項1記載のマルチチャンネル記録装置は、更に前記複数のチャンネル及び前記関連情報を含む各トランスポートストリームの中から、特定のトランスポートストリームを選択して受信するチューナ手段を備え、前記関連情報獲得手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームから前記関連情報を分離して、獲得し、前記一括記録データ選択・抽出手段は、前記チューナ手段により受信された前記特定のトランスポートストリームに含まれる前記複数のチャンネルの各データを対象として前記一括記録の対象データを抽出するマルチチャンネル再生装置である。

【0021】請求項15記載の本発明は、請求項1記載のマルチチャンネル記録装置における前記一括記録データ選択・抽出手段は、送信されてくる前記複数のチャンネルの各データの中から前記決定された一括記録の対象

データを選択して受信し、前記関連情報獲得手段は、前記送信されてくる前記複数のチャンネルに含まれている前記関連情報を、又は、前記送信経路とは別の経路で送信されてくる前記関連情報を獲得するマルチチャンネル再生装置である。

【0022】

【発明の実施の形態】次に、本発明に係るマルチチャンネル記録装置及びマルチチャンネル再生装置の実施の形態について図面を用いて説明する。

【0023】（実施の形態1）図1は、本発明に係るマルチチャンネル記録装置及びマルチチャンネル再生装置を用いた一実施の形態のマルチチャンネル記録再生装置の構成図であり、同図を参照しながら本実施の形態の構成を説明する。

【0024】図1に示す様に、本発明のチューナ手段に対応する受信手段1は、ユーザからの選択指示に従って、複数のトランスポンダが存在するデジタル放送信号2から特定のトランスポンダを選択して、受信する手段である。一つのトランスポンダには、通常4～6チャンネルが多重化され、一つのデータ列として含まれている。又、本実施の形態では、このトランスポンダには、上記複数のチャンネルの他に、予め放送局側で作成された、番組メニュー情報に加えて、それら複数のチャンネル間の番組関連情報（以下、単に関連情報と呼ぶ）をも含んでいるものとする。ここで言う関連情報は、単なる番組名や開始日時等を記載した従来の個々の番組に付いての番組メニュー情報ではなく、後述する様に、複数の番組を一括して記録するために必要となる情報のことである。本実施の形態では、番組メニュー情報と関連情報とをそれぞれ独立した情報として並列的に取り扱う場合について説明するが、これに限らず例えば、関連情報の中に、従来の番組メニュー情報が含まれている構成としても勿論良い。具体的には更に後述する。トランスポートストリーム復調手段3は、特定のトランスポンダを復調してトランスポートストリーム4を生成するための手段であり、本発明の関連情報獲得手段に対応する関連情報分離手段5は、復調されたトランスポートストリーム4から関連情報を分離し、その関連情報を後述するチャンネル関連付け手段7や表示手段13へ出力する手段である。関連情報分離手段5は、番組メニュー情報も上記と同様に分離し出力する。又、関連情報分離手段5は、放送抽出手段8へは関連情報が分離されたトランスポートストリーム（図中では、m個の放送）を送る。

【0025】一括記録指示手段6は、複数の番組を一括して記録するための一括記録指示をするための手段であり、本発明の一括記録データ決定手段に対応するチャンネル関連付け手段7は、上記一括記録指示に基づいて、関連情報を調べ、複数の番組の中から一括記録の対象となる番組を決定するための手段である。本発明の一括記録データ選択・抽出手段に対応する放送抽出手段8は、

m個のチャンネルの各番組の中から、チャンネル関連付け手段7の上記決定に従って、一括記録の対象となるn個の番組(但し、 $m \geq n$ )を抽出し、出力する手段であり、記憶手段9は、記録データの格納のためにハードディスク装置(以下、単にHDDと言う)を用いる構成であり、n個の番組とチャンネル関連付け手段7から出力される関連情報とを上記HDDに格納する手段である。又、記憶手段9は、チャンネル指定手段10からの指示により、記録データの読み出しをも行う手段である。記憶手段9は、本発明の記録手段と関連情報再生手段とデータ再生手段とを含む手段である。チャンネル指定手段10は、ユーザが再生を希望する番組を自ら指定するための手段であり、その指定に際しては、後述する表示手段13に表示された関連情報による番組メニューをユーザが見ながら、リモコンなどで指示する構成である。再生チャンネル選択手段11は、記憶手段9に対しては、関連情報の再生を指示し、又データ伸張手段12に対しては、その関連情報の伸張を指示し、更に又、表示手段13に対しては、その伸張された関連情報による番組メニューの表示を指示する手段である。本発明のデータ指定手段はチャンネル指定手段10等を含むものである。

【0026】以上の構成において、次に本実施の形態の動作を説明する。

【0027】ここでは、(1) 先ず、野球放送を例にとって述べ、(2) 次に、ニャビデオオンデマンド(以下、単にNVODと言う)放送を例にとって述べる。

#### (1) 野球放送についての動作例

##### (1-1) 録画動作の説明

動作説明に入る前に、特定の野球の試合に関する放送が、一つのトランスポートストリームにおいて、複数のチャンネルを利用して放送されている場合の、その放送の内容から説明する。

【0028】即ち、一つの野球の試合に対して、複数台のカメラアングルをそれぞれ独立のチャンネルに割り当て、総合的な野球番組として放送を実施する場合が考えられる。

【0029】又、上記複数のチャンネルの内、例えば、あるチャンネルの放送は、試合の中継そのものでなくても、その試合に登場する選手のプロフィールなど、その試合に関する幅広い情報を専門に扱うチャンネルとしても勿論よい。この場合、放送局側が送信する関連情報としては、第1チャンネルは、「野球放送A」と言う番組名が付けられた特定の野球の試合の主放送を、第2チャンネルは第1チャンネルと同じ野球の試合の一塁側のカメラアングル専用放送を、そして第3チャンネルは第1チャンネルと同じ野球の試合の三塁側のカメラアングル専用放送を、更に第nチャンネルは、第1チャンネルと同じ野球の試合に登場する選手のプロフィール専用放送を扱うものであるという情報となる。

【0030】ここで、関連する放送を一括して記録する

ために最低限必要となる最も重要な情報は、第2チャンネル〜第nチャンネルが第1チャンネルと同じ野球の試合についての放送であると言うチャンネル間の関連情報である。具体的には、それぞれのチャンネルに上記関連性を識別可能な識別コードが付されている。更に又、再生の際、各チャンネルについて相互に時間的な同期をとることが出来るようにするための時刻管理情報も上記関連情報に含まれている。ここで、図2に、関連情報の一部を概念的に表した図を示す。又、図2は $n=4$ の場合を示している。

【0031】尚、この場合、1本のトランスポートストリームに含まれる全チャンネル数がm個であれば( $m-n$ )個のチャンネルは、上記野球の試合の放送とは、関連性のない放送である。チャンネル間の関連情報は、このようにm個のチャンネルから相互に関連性を持った第1〜第nのn個のチャンネルを選択するために用いられる。

【0032】ユーザが録画しようとしている「野球放送A」が、以上のようなチャンネル構成であるとの前提で、以下に動作を説明する。

【0033】ユーザは、表示手段13に表示されている、番組メニュー情報に基づくテレビ番組一覧表(図示省略)を見て、「野球放送A」と言う番組が、第Kトランスポンダで放送されていることを確認し、本装置の操作スイッチ(図示省略)を用いて、第Kトランスポンダを選択する旨の指示をする。受信手段1は、ユーザからの指示に基づいて、第Kトランスポンダを選択し、選択された第Kトランスポンダがトランスポートストリーム復調手段3を介して第Kトランスポートストリームに復調されて、その第Kトランスポートストリームから関連情報分離手段5により第Kトランスポートストリーム内の番組メニュー情報等をも含むチャンネル間の関連情報が分離される。分離された関連情報は、番組メニューの形態に処理されて、表示手段13に表示される。ユーザは、一括記録指示手段6を操作して、番組メニューの内容から「野球放送A」を録画対象として選択する。ここで、表示手段13に表示される番組メニューの表示例を図3に示す。

【0034】即ち、ユーザは、図3に示すような表示メニューを用いて録画対象を選択する。同図では、縦方向に放映時刻、横方向に放送局毎の欄が設けられている。このようないわゆる番組表を表示手段13に表示し、リモコン等のポインティングデバイスを用いて、該当する枠を選択することで録画予約処理を行う。同図にて録画予約済と記載された枠は録画予約処理が実施されたものであることを意味する。ここでは、ニュース、野球放送A、ショッピング案内が録画予約されている。また野球放送Aは表示枠の内部に更に小さな枠を3個備えている。これらの枠は、それぞれのカメラアングルに相当する放送についての録画の予約処理に用いる。同図では野

球放送Aとして放送される、複数のカメラアングルによる放送をすべて録画するように選択した結果が表示されている。図1の一括記録指示手段6は、上述したリモコンであり、以上のような予約処理の結果をチャンネル関連付け手段7に送る。

【0035】チャンネル関連付け手段7は、一括記録指示手段6からの「野球放送A」を選択する旨の指示を得て、関連情報分離手段5を介して表示手段13に対し、「野球放送A」を一括記録する旨を示す表示を行わせる。同時に、チャンネル関連付け手段7は、関連情報の中から、「野球放送A」に関連するチャンネルであること示す識別コードをm個の各チャンネルについて調べ、第1チャンネル～第nチャンネルが相互に関連するチャンネルであると判定する。そして、放送抽出手段8に対して、第Kトランスポートストリームから第1チャンネル～第nチャンネルを抽出する様にとの指令を出す。更に又、これと同時にチャンネル関連付け手段7は、記憶手段9に対しては、「野球放送A」についての関連情報を送る。尚、この場合、関連情報の内、記録対象となった「野球放送A」を録画した後、録画データの中から再び検索し再生する際に最低限必要となる情報のみに絞って記憶手段9へ送ってもよい。ここで、最低限必要となる情報としては、例えば、記録番組のタイトル名である「野球放送A」と、第1チャンネル～第nチャンネルの関連性を示す識別コードと、時刻管理情報である。この場合は、再生の際に最初に表示画面上に「野球放送A」に関連する全てのチャンネルの番組をマルチ画面表示することにより、ユーザの選択が可能であるので、各チャンネルの具体的な内容を説明するチャンネル解説情報は特に送らなくても良い。

【0036】放送抽出手段8は、チャンネル関連付け手段7からの上記指令を受けて、第Kトランスポートストリームから第1チャンネル～第nチャンネルを抽出して、記憶手段9へ送り、記憶手段9はそれらチャンネルの番組と、関連情報とをハードディスク装置に記録する。

【0037】以上が一般的な放送システムにおける録画方法である。

【0038】しかし、これとは別に、圧縮比が可変である方式にて放送を行うシステムの場合などでは、例えば、「野球放送A」を中継中に、関連性をもったチャンネルの数が、変化することもある。以下、この様な場合について述べる。

【0039】即ち、「野球放送A」の中継開始時は4個のチャンネルを用いて放送していたが、高精細な画像を要求するコマーシャルの時間帯には、チャンネルの数を4個から1個に一時的に変化する場合が考えられる。また、「野球放送A」が、試合が延長戦に入ったために放送終了予定時刻を延長する様な状況で、その「野球放送A」の終了予定時刻の後に、放送が予定されていたドラ

マの番組などがあった場合には、次のような、使用するチャンネルの変化が考えられる。即ち、このドラマを当所の予定通りの時刻から特定のチャンネルで放送を開始しながら、同時に、延長戦に入った「野球放送A」については、それまで4個のチャンネルを用いての放送形態から、更に圧縮比を上げて、1個のチャンネルだけによる放送形態に変更すると言ったものである。

【0040】チャンネル関連付け手段7は、これらの時事刻々変化するチャンネル数の変化を識別し、その変化状況に適切に対応して、選択された関連性の有るチャンネル群を記憶手段9に記録することができるものである。

【0041】この様に、本実施の形態では、上記のようなn個のチャンネルをまとめて記憶することで、放送局側で実現される多チャンネルサービスを簡単な操作で記憶手段9に記録できる。

【0042】又、記憶手段9として、半導体メモリを用いると高速に検索することができるが、上述のようにHDDを用いるとさらに低コストにて実現することができる。

【0043】また、チャンネル関連付け情報も記憶手段9に保存しておくことで、記憶手段9から放送を再生する場合に、放送側でリアルタイムで実現されているサービスと同様な機能を実現することができる。

【0044】(1-2)再生動作の説明

次に、上記動作により録画された「野球放送A」を再生する場合の動作を説明する。

【0045】ユーザは、チャンネル指定手段10を用いて、先ず再生動作を指示する。再生動作指示を得た再生チャンネル選択手段11は、記憶手段9に対して録画されたデータから番組タイトル情報を読み出させ旨の指令をする。更に、データ伸張手段12に対してその読み出された番組タイトル情報を伸張し、一覧表にして表示出来る様に処理させる旨の指令をし、表示手段13に対してその一覧表を表示させる旨の指令を出す。ユーザは、表示手段13に表示された録画番組のタイトル一覧表を見ながら、チャンネル指定手段10を用いて、「野球放送A」を再生対象として選択指示する。再生チャンネル選択手段11は、その選択指示を得た際、記憶手段9に対して、「野球放送A」の関連情報を読み出させる旨の指令をし、各手段に対して、番組タイトル情報の場合と同様の動作を行う。これにより表示手段13は、「野球放送A」に関連する第1～第nチャンネルのチャンネル解説情報を一覧表にして表示する。

【0046】ユーザは、この一覧表を見ながら、チャンネル指定手段10を用いて、再生したいと思う番組のチャンネル名として、第1チャンネル、第3チャンネル、・・・、第nチャンネルの合計L個のチャンネルを選択指示する。但し、 $L \leq n$ であるとする。これにより、再生チャンネル選択手段11からの指令に従って、記憶手

段 9 によりそれら 1 個のチャンネルのデータが読み出され、データ伸張手段 1 2 を介して、表示手段 1 3 の画面上に再生される。表示方法としては、主放送である第 1 チャンネルが全画面に映し出され、その他のチャンネルの番組は、それより小さい子画面として、重ねて表示し、全画面と子画面のチャンネルの入れ替えを自由に出来る様にしてもよいし、あるいは、全画面を 1 個に等分割してマルチ画面による表示等をおこなってもよい。マルチ画面表示の具体例としては、第 1 チャンネルが打者 B の映像であり、第 3 チャンネルが 2 塁走者の映像であるとして、打者 B がヒットを打った時に、ユーザはチャンネル指定手段 1 0 を用いて表示切り換えを指示すれば、第 1 チャンネルの画面のみが、全画面表示されると言うように、容易にしかも瞬時に画面を切り替えることができる。

【 0 0 4 7 】尚、上記チャンネル解説情報を利用しない場合における、ユーザが特定のチャンネルを選択する別のやり方として、第 1 ～第 n チャンネルの放送を、表示手段 1 3 にマルチ画面表示して、それらを見ながら、好みのチャンネルを選択する方法も可能である。

【 0 0 4 8 】又、これとは別に、例えば、複数チャンネルにより形成される総合野球放送の主放送のみが優先して自動的に選択され、再生される様にすることも勿論出来る。

【 0 0 4 9 】このように、チャンネル指定手段 1 0、再生チャンネル選択手段 1 1 等を備えることで、再生時の操作性をより一層向上させることが出来る。

## (2) NVOD 放送についての動作例

### (2-1) 録画動作の説明

動作説明に入る前に、ここでの動作説明の前提となるトランスポンダの放送状況について図面を参照しながら説明する。図 4 は、3 つのトランスポンダにおける NVOD 放送の状況を示すタイムチャートである。

【 0 0 5 0 】同図に示すように、第 1 トランスポンダ 4 1 では、チャンネル A ～チャンネル D の合計 4 チャンネル分を用いて、3 0 分のインターバルをとりながら放映時間が 1 時間 4 5 分の映画 S (映画名：青い青春) が順次放送されている。又、第 2 トランスポンダ 4 2 では、チャンネル A ～チャンネル G の合計 7 チャンネル分を用いて、1 5 分のインターバルをとりながら 1 時間 4 5 分の映画 T が放送されており、第 3 トランスポンダ 4 3 でも、同様に 2 チャンネル分を用いて、映画 U が放送されている。尚、同図において、斜線を施した領域 4 4、4 5 は、後述する録画対象のチャンネルとその録画時間帯を示している。

【 0 0 5 1 】又、ここで第 1 トランスポンダ内に含まれている関連情報の例を、図 5 (a)、(b) に示す。即ち、図 5 (a) は、第 1 トランスポンダ内の他のチャンネルのデータと連続性を保って記録するために必要となる、映画番組単位での個別時間情報であり、図 5 (b)

は、後述する時間短縮記録の可能な時間帯を判別するために必要となる、放送開始時刻や終了時刻の情報が含まれた放送時刻表である。尚、図 5 (b) には、記載されていないが、上記情報に加えて、更に番組内容変化に関する情報が必要となる場合がある。例えば、定常的には 4 M b p s の転送レートで放送されている番組に対して 1 5 分毎に 3 分のコマーシャルを挿入する場合、このコマーシャルの転送レートが 8 M b p s であったりする事が考えられる。このような放送を整理して記録するためには、転送速度変化が読み取れる情報が必要となる。即ち、上述した番組内容変化に関する情報とは、このような、同一番組内での転送速度変化についての情報のことである。

【 0 0 5 2 】以上の様な状況を前提として、以下に第 1 ～第 3 の 3 つの典型的な動作を説明する。

【 0 0 5 3 】(第 1 の動作例) ここでは、一つのトランスポンダ内の映画のみを記録する場合について述べる。

【 0 0 5 4 】ユーザが、第 1 トランスポンダ 4 1 を選択する動作は、上述した (1-1) の内容と同じである。表示手段 1 3 には、図 6 に示すメニューが表示される。この表示は、番組メニュー情報と関連情報とから生成されたものである。即ち、時間短縮記録の可能な時間帯として、1 8 : 3 0 ～ 2 3 : 4 5 との表示があるのは、図 5 (b) に示す関連情報に基づいて割り出された情報である。

【 0 0 5 5 】次に、ユーザは、一括記録指示手段 6 を用いて、2 1 時 3 0 分において、映画 S の一括記録を指示する。

【 0 0 5 6 】このときに、チャンネル関連付け手段 7 は、一括記録の指示時刻が、上記時間短縮可能時間帯の範囲内にあると判定して、図 5 (a)、(b) に示す関連情報を参照して、指示の有った 2 1 時 3 0 分から記録を開示するとして、何れのチャンネルを用いて、どの時刻まで記録を続ければ、最も短時間で録画が完了するかを割り出す。尚、時間短縮可能時間帯の範囲外であると判定すれば、全ての映像を完全な状態で録画することは出来ない旨のメッセージを表示手段 1 3 に表示し、同時に警告音を発し、以降の動作を停止する。

【 0 0 5 7 】ここでは、チャンネル関連付け手段 7 は、チャンネル A ～ C を 2 1 時 3 0 分から 2 2 時まで、又、チャンネル D を 3 時から 3 時 1 5 分まで一括録画することを決め、その旨を放送抽出手段 8 と記憶手段 9 へ伝える。放送抽出手段 8 は、チャンネル関連付け手段 7 からの上記指示に従って、指定チャンネルについて指定期間だけ抽出し、記録手段 9 へ出力する。記憶手段 9 は、上述した関連情報の記録の他に、上記記録対象となったチャンネル名とその記録時間帯との情報を新たに時短録画関連情報として、映画 S の記録と対応付けて記録する。ここで、時短録画関連情報は、上述した放送局側から予め送られてくる関連情報とは、異なり、チャンネル関連



付け手段7が、上記関連情報を基にして独自に決定した時間短縮録画を実現するための情報である。

【0058】従来の記録方式であれば、一つのチャンネルしか利用しないので、映画Sの録画に要する時間は言うまでもなく1時間45分であるが、本実施の形態によれば、同じ映画Sを記録するのに要する時間はわずか30分であり、その効果は極めて大きい。

【0059】(第2の動作例)ここでは、二つのトランスポンダ内の映画をそれぞれ記録する場合について述べる。

【0060】即ち、ユーザにより、図4に示した、第2と第1のトランスポンダ42、41で放送されている映画Tと映画Sを、時間的にはその順番に録画する旨の指示が、20時45分に出されたとする。この場合、チャンネル関連付け手段7が、第1トランスポンダ41と第2トランスポンダ42との間で重なっている放送を識別し、映画Sと映画Tのそれぞれについて時間短縮記録を実施する時刻を調整する。図4では、最初は、第2トランスポンダ42が受信されて、映画Tを20時45分から21時までチャンネルA～Gを用いて録画(図4中では、領域45で表した)し、その後、第1トランスポンダ41に受信を切り換えて、映画Sを21時30分から22時までチャンネルA～Dを用いて録画(図4中では、領域44で表した)することを示している。映画Tと映画Sの録画時間は、本実施の形態では、それぞれわずか15分と30分である。同図に示すように、仮に二つの映画の録画動作の間に30分の余裕を取った場合でも、それらの録画完了まで、わずか1時間15分である。従来通りのやり方では、映画Sを録画するだけで1時間45分必要となり、この時間短縮録画の効果は極めて大きい。又、勿論、録画時刻の調整については、上記30分の余裕を削除して、映画Sの録画時刻を21時から21時30分までとする方が、ユーザの録画要求を更に早く完了する事が出来るのでより望ましい。ここで、受信手段1によるトランスポンダの受信切り換え動作は、チャンネル関連付け手段7からの指令に従って実施される。尚、この様に、複数のトランスポンダの映画をそれぞれ時間短縮録画するためには、ユーザからの録画要求が発生した段階で、録画に先立ち、それぞれのトランスポンダに含まれている関連情報を獲得する必要がある。チャンネル関連付け手段7は、受信手段1に対して、各トランスポンダに含まれた関連情報を完全な形で分離出来る最小限の時間だけ、各トランスポンダを時間的に順次ずらしながら選択して受信させることによりこれを実現する。これにより、複数の受信手段を備える必要もなく、簡単な構成でありながら、複数の映画をそれぞれ時間短縮して録画することができる。尚、これとは別に、同一のトランスポンダ内に、複数の映画が複数のチャンネルを用いて放送されている場合も、上述した場合と同様の動作で複数の映画を時間短縮して録画可能で

ある。

【0061】放送抽出手段8及び記憶手段9の各動作は、上述した(第1の動作例)の場合と基本的に同じである。

【0062】(第3の動作例)ここでは、トランスポンダ42内のチャンネルの状況が、過渡的な状況にある場合について、図7を参照しながら述べる。

【0063】図7では、トランスポンダ81におけるチャンネル状況が、当初8個のチャンネルA～Hを用いて、映画Vが放送されていたが、17時から順次チャンネルの使用状況が変化して、18時30分の時点では、それまで放送されていた映画Vの放送が完全に終了し、4個のチャンネルによる別の映画Wのみが放送されている様子が示されている。映画Wは、放送時間が1時間50分の映画であり、第1～第4チャンネル72～75において、30分のインターバルで順次放送されている。

【0064】この様な過渡的な状況で、18時にユーザが映画Wの録画を指示した場合、チャンネル関連付け手段7は、図7における過渡的な状況を示す関連情報から、録画するチャンネルとそれぞれの録画時間(図中、枠71で囲んだ領域内)を割り出す。同図に示す様に各チャンネルと録画時刻は、次の通りである。即ち、第1チャンネル72は18時から18時50分、第2～第3チャンネル73、74は共に18時から18時30分であり、第4チャンネル75は録画対象ではない。従って、この場合、録画に要する時間は、50分である。

【0065】尚、放送開始時点の過渡的な状況も、図7において、8個のチャンネルA～Hを用いた映画Vの放送が無いとした場合に相当し、上述した状況と本質的には同じ状況であり、同様の動作となる。

【0066】又、過渡的な状況の他の場合として、図8に示す様に、放送終了時における状況がある。同図は、上述した図5(b)と同じ内容をタイムチャートで示した図であり、22時30分以降は、各チャンネルにおいて新たな放送を開始しないので、22時30分からの録画スタートを最後にそれ以降は、完全な録画は出来ない。即ち、録画出来ない映像部分が発生する。又、図中、点線で表したように、チャンネルB～Dによる放送が、チャンネルAと同様に、0時15分まで行われる場合であれば、23時45分が完全な時間短縮録画が可能となる最終の時刻である。

【0067】放送抽出手段8及び記憶手段9の各動作は、上述した第1の動作例の場合と基本的に同じである。

【0068】(2-2)再生動作の説明

次に、上記第1の動作例において録画された映画Sを再生する場合を中心に説明する。

【0069】ユーザがチャンネル指定手段10を用いて再生動作を指示し、それにより、表示手段13に録画番組のタイトル一覧表が表示されるか、あるいは、マルチ



画面表示されるかは、(1-2)再生動作の説明で述べた内容と同じである。

【0070】録画番組のタイトル一覧表が表示されている場合は、ユーザはチャンネル指定手段10を用いて、映画Sを再生対象として選択指示する。再生チャンネル選択手段11は、記憶手段9に対して、映画Sに対応した関連情報と時短録画関連情報とを読み出し、出力する様に指令する。再生チャンネル選択手段11は、出力されたそれら双方の情報を得て、記憶手段9に対して、図4の領域44で示した各チャンネルA~Dの再生順序を示す次のような指示を出す。即ち、その再生順序としては、最初にチャンネルC、次にチャンネルB、そしてチャンネルA、最後にチャンネルDと言う順番である。この様な順番で再生しないと、映画Sの再生映像が本来の連続したものとならない。記憶手段9によりこの様な再生順序で再生された記録データは、データ伸張手段12により伸張されて、表示手段13で正しく再現される。尚、上記第2、第3の記録動作例に対応する再生動作も基本的に上述した内容と同じである。以上のように、上記実施の形態では、NVOD放送をまとめて一括記録することで時間短縮記録を行うことが出来るものである。

【0071】又、このような時間短縮記録を実施した後には再生位置を自在に変更することが可能となる。

【0072】ところで、記憶装置として磁気テープを用いる場合、時間短縮記録した番組を連続的に再生することは困難である。なぜなら巻き戻しの時間を必要とするからである。そこで、磁気テープと他の高速アクセス可能なメモリ装置を組み合わせて、磁気テープを高速再生し、一旦前記他のメモリ装置に放送を蓄え、このメモリ装置から再生を実施し、空き時間を用いて巻き戻しを行う方法もある。

【0073】しかしながら、この方法ではテープの再生、巻き戻しの回数が増加し、テープ寿命、騒音の問題が発生する。

【0074】従って、上記実施の形態で述べた様に、記憶装置としてHDDを用いればアクセス時間が速く、巻き戻しの時間が必要ないため時間短縮記録を行った場合でも連続的に再生することができる。

【0075】(2-3)別の再生動作の説明

これまでに述べた再生動作は、一旦記録が完了した後に、その記録データを再生する場合の動作であったが、ここでは、野球放送Aに関連するn個のチャンネルの放送を記録中に、その記録課程にあるn個の放送の内、特定のl個の放送を再生する場合の例について説明する。

【0076】記録の最中の野球放送Aの記録データは時事刻々内容が増加している。再生チャンネル選択手段では、この時事刻々内容増加状況を監視し、記録されつつあるデータのみを再生する機能を備える。即ち、記録対象となった番組について、複数のチャンネルの記録が完了するまでの間の任意の時刻位置から、任意のチャ

ネルを選択し再生出来るものである。これら一連の動作において、関連情報等の用いられ方は、上記動作例と同じである。

【0077】記録側での時事刻々の内容増加管理情報を再生側で用いることで、従来のVTRでは実現できなかった記録と再生の同時処理を実現することができる。この場合、記録中のデータを間引き再生や、早送り再生をすることにより、現在放送中の番組の頭の部分を見逃した場合でも、番組の最初から見る事が出来、しかも、再生していく途中で、やがてリアルタイムの放送に追いつくので、その時点からは、記録動作を中止して、現実の放送に切り換えることが出来るという、追いかけ再生が可能である。

【0078】ところで、記録動作の最中に、同時にリアルタイムの放送を視聴する場合について簡単に説明する。即ち、これを実現するためには、関連情報分離手段5と放送抽出手段8とを更に備える構成とすればよい。この場合の具体的な構成を図9に示す。ここでは、図9と上述した図1との構成上の対応関係を中心に説明する。

【0079】同図に示すように、CSチューナ91は、受信手段1に対応し、デジタル復調器92と誤り訂正93は、トランスポートストリーム復調手段3に対応する。トランスポートデコーダ94は、関連情報分離手段5と放送抽出手段8とに対応する。尚、デ・スクランブラ95は、放送信号のスクランブル解除を行う手段である。又、ストレージコントローラ96は、関連情報分離手段5と放送抽出手段8とに対応する。主記憶装置97は、記憶手段9に対応し、リモコン受信98及び演算処理部99は、チャンネル関連付け手段7及び再生チャンネル選択手段11等に対応する。MPEG2デコーダ100は、データ伸張手段12に対応し、ディスプレイ101は表示手段13に対応する。

【0080】ストレージコントローラ96に多チャンネル同時処理が可能なトランスポートデコーダ94の機能を備えることにより、時間短縮記録を行っている間に、同一トランスポートストリームの中の一つのチャンネルを視聴することが出来る。例えば、NVODにおいて、映画を視聴しながら同時に主記憶装置97に時間短縮記録が出来る。時間短縮記録と同時に、リアルタイムに映画を視聴する方法としては、図9に示すように、二通りの方法がある。即ち、その二通りの方法とは、多チャンネル記録されつつある映画を1つのチャンネルだけ抽出して同時再生することで実現する方法と、誤り訂正93からの出力を直接トランスポートデコーダ94へ送り、それをMPEG2デコーダ100を介してディスプレイ101上に映し出す方法である。又、その他の基本的な動作は、上記実施の形態で述べた内容と同じである。

【0081】(実施の形態2)図10は、本発明に係るマルチチャンネル記録装置及びマルチチャンネル再生装

置を用いた別の実施の形態のマルチチャンネル記録再生装置の構成図であり、同図を参照しながら本実施の形態の構成と動作を併せて説明する。

【0082】実施の形態1がデジタル放送信号を対象としていたが、本実施の形態では、アナログ放送信号を対象とする。従って、本実施の構成と実施の形態1の構成の違いは、基本的には受信信号のこのような相違に基づくものであり、基本的に同じものには、同じ符号を付し、その説明を省略する。

【0083】図10に示すように、チャンネル関連付け情報入手手段110は、文字多重情報もしくは通信回線情報から複数のチャンネル間の関連性を示す関連情報を入力する手段であり、チャンネル関連付け手段111は、この関連情報を用いて複数のチャンネルを関連づける手段である。又、チャンネル関連付け手段111は、その関連情報や番組メニューあるいは時短録画関連情報を、後述する複数チャンネル受信手段112、圧縮符号化手段113、記憶手段114、更に表示手段13へ送る。ここで、関連情報や番組メニューあるいは時短録画関連情報は、上記実施の形態1で述べたものと基本的には同じものである。複数チャンネル受信手段112は、チャンネル関連付け手段111の指令に従いアナログ放送の受信チャンネルを決定する手段である。複数チャンネル受信手段112は、最大個数m個のチャンネルを同時に受信可能なように、m個のチューナを内蔵している。圧縮符号化手段113は、チャンネル関連付け手段111の指令に従い複数チャンネル受信手段112により受信された放送を圧縮符号化する手段である。記憶手段114は、圧縮符号化された複数の放送及びチャンネル関連付け情報を記憶する手段であり、ハードディスク装置により構成される。

【0084】同図において、一括記録指示手段6からユーザの一括記録指示が有った際、チャンネル関連付け手段111は、指示内容に応じたn個の関連するチャンネルを選択し、受信する旨を複数チャンネル受信手段112へ指示し、圧縮符号化手段113により符号化処理されて、記憶手段114へ送られる。その他の記録動作及び再生動作は、本実施の形態では、入力放送信号がアナログ信号である点と、チューナが複数個ある点等に関連する動作上の相違点を除いて、上記実施の形態1の場合と基本的には同じである。但し、放送される番組は、実施の形態1で用いられているいくつかの例と同様に、複数のチャンネルで一括した番組を提供する放送形態、あるいは1つのアナログチャンネルで例えば画面を分割することでデジタルにおけるマルチチャンネル放送と同様の放送を行う形態を前提としている。

【0085】尚、字幕放送の場合、本放送と関連性のある形で放送されるが、この関連性のある情報を本放送と同期させて再生するためには同じ尺度の時間管理情報をそれぞれのチャンネル（即ち、本放送と字幕放送）を記

録する時に付加する必要がある。あるいは、それぞれのチャンネルの関連情報に予めその様な時間管理情報をも含めておいてもよい。

【0086】ところで、本実施の形態の更に具体的な構成を図11に示す。ここでは、図11と上述した図10との構成上の対応関係を中心に説明する。

【0087】図10において、インプットキャッチャ121は、複数チャンネル受信手段112に、圧縮／伸張部122は圧縮符号化手段113にそれぞれ対応する。主記憶123は記憶手段114に、モデム124はチャンネル関連付け情報入手手段110にそれぞれ対応する。又、リモコン受信125及び演算処理部126は、チャンネル関連付け手段111及び再生チャンネル選択手段11等に対応する。

【0088】又、図11に示す構成は、図10を用いて述べた、関連情報をアナログ放送信号とは、別ルートから入手する場合の構成と異なり、文字多重放送により送られる天気予報、ニュース等の情報を1チャンネルとして扱い、インプットキャッチャ121（複数チャンネル受信手段112）により受信する場合の例である。

【0089】この様に本実施の形態によれば、チューナの数が増える点を除いては、基本的には、実施の形態1と同じ効果が得られる。

【0090】尚、上記実施の形態では、記憶手段としてHDDを用いた場合について説明したが、これに限らず例えば、半導体メモリ等の他の記録媒体を用いても良く、その場合でも記録と再生の処理を同時に行うことが出来る。

【0091】又、上記実施の形態では、複数のチャンネルの構成として、一般番組が複数チャンネルにより構成されている場合について説明したがこれに限らず例えば、番組案内情報やイベント案内情報、あるいはその他の通信データ等のデータも1つのチャンネルとして扱っても良い。

【0092】又、上記実施の形態では、本発明のマルチチャンネル記録装置とマルチチャンネル再生装置の双方を同時に備えたマルチチャンネル記録再生装置について説明したが、これに限らず例えば、記録機能と再生機能の内、何れか一方の機能のみを備えた装置であっても勿論良い。

【0093】

【発明の効果】以上述べたところから明らかなように本発明は、複数のチャンネルの各データを従来に比べてより一層効果的に活用出来ると言う長所を有する。

【0094】又、本発明は、複数のチャンネルの各データを従来に比べてより一層短時間で記録出来ると言う長所を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る実施の形態1のマルチチャンネル記録再生装置の構成図

【図 2】本実施の形態における関連情報の一部を概念的に表した図

【図 3】本実施の形態における表示手段に表示される番組メニューの表示例を示す図

【図 4】本実施の形態における 3 つのトランスポンダにおける NVO D 放送の状況を示すタイムチャート図

【図 5】(a) : 映画番組単位での個別時間情報の説明図

(b) : 時間短縮記録の可能な時間帯を判別するための放送時刻表の概念図

【図 6】番組メニュー情報と関連情報とから生成されたメニューの説明図

【図 7】本実施の形態におけるチャンネル数の変化状況を説明する図

【図 8】本実施の形態における放送終了時における状況を説明する図

【図 9】本実施の形態における他のマルチチャンネル記

録再生装置の構成図

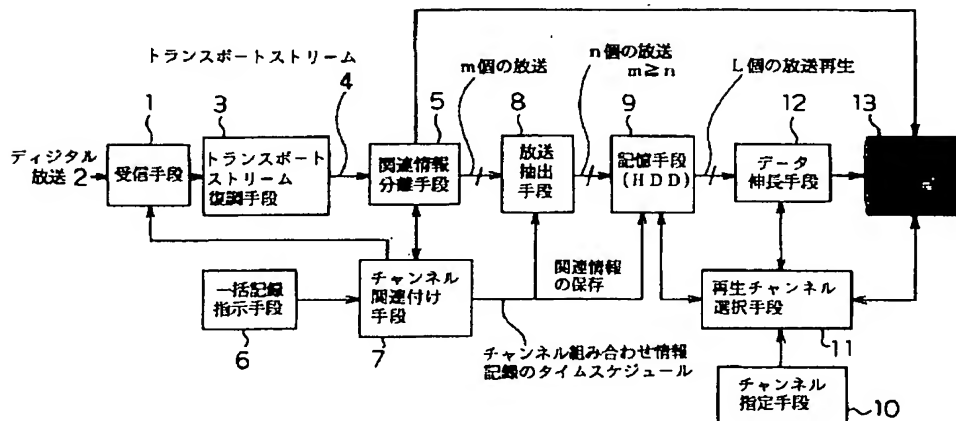
【図 10】本発明に係る実施の形態 2 のマルチチャンネル記録再生装置の構成図

【図 11】本実施の形態における他のマルチチャンネル記録再生装置の構成図

【符号の説明】

- 1 受信手段
- 2 デジタル放送信号
- 3 トランスポートストリーム復調手段
- 4 トランスポートストリーム
- 5 関連情報分離手段
- 6 一括記録指示手段
- 7 チャンネル関連付け手段
- 8 放送抽出手段
- 9 記憶手段 (HDD)
- 10 チャンネル指定手段
- 11 表示手段
- 12 データ伸長手段
- 13 再生チャンネル選択手段

【図 1】



【図 2】

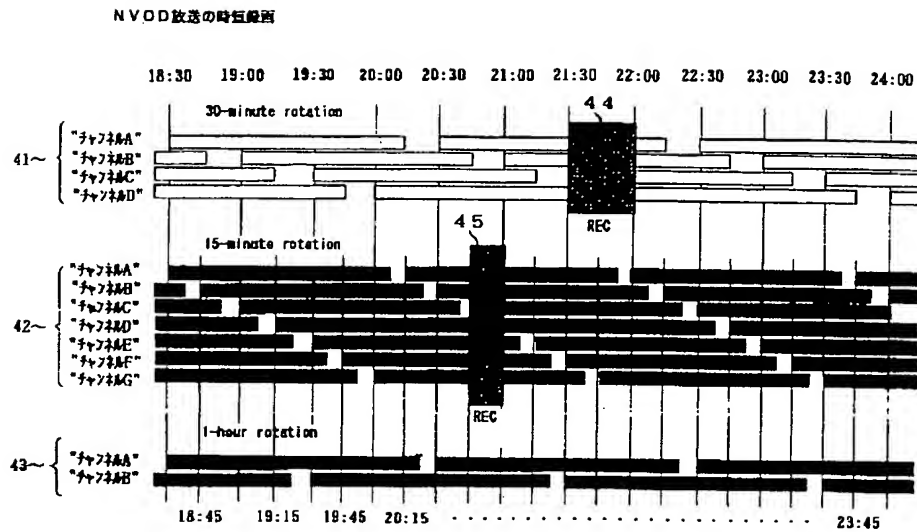
	チャンネル1	チャンネル2	チャンネル3	チャンネル4
番組名 (識別コード)	野球放送A (089A)	野球放送A (089A)	野球放送A (089A)	野球放送A (089A)
カメラアングル	メイン	一塁側	三塁側	センター側
時刻管理情報 (放送時刻表)	19:00   20:00   21:00   22:00	19:00   20:00   21:00   22:00	19:00   20:00   21:00   22:00	20:00   21:00   22:00

【図 3】

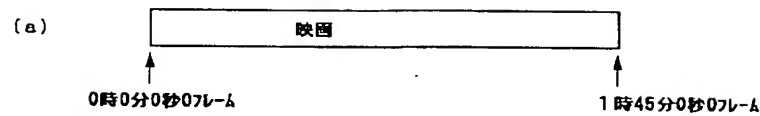
録画予約表

放映時刻	●×△放送	XYZ放送
18:00	ニュース	クイズ
18:30	アニメ	
19:00	野球放送A	ゲーム案内
19:30		
20:00	三塁側カメラ	ショッピング案内
20:30	一塁側カメラ	
21:00	センター側カメラ	
21:30		
22:00		
22:30	ドラマ	

【図4】



【図5】



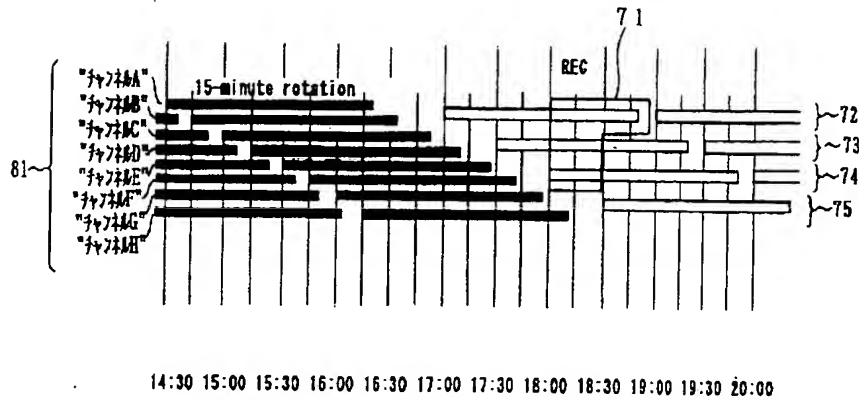
(b)

チャンネル	開始時刻	終了時刻	放映時間	チャンネル	開始時刻	終了時刻	放映時間
A	18:30	20:15	1時間45分	C	17:30	18:15	1時間45分
	20:30	22:15	1時間45分		19:30	21:15	1時間45分
	22:30	00:15	1時間45分		21:30	23:15	1時間45分
B	17:00	18:45	1時間45分		23:30	00:15	45分
	19:00	20:45	1時間45分	D	18:00	19:45	1時間45分
	21:00	22:45	1時間45分		20:00	21:45	1時間45分
	23:00	00:15	1時間15分		22:00	23:45	1時間45分
			24:00		00:15	15分	

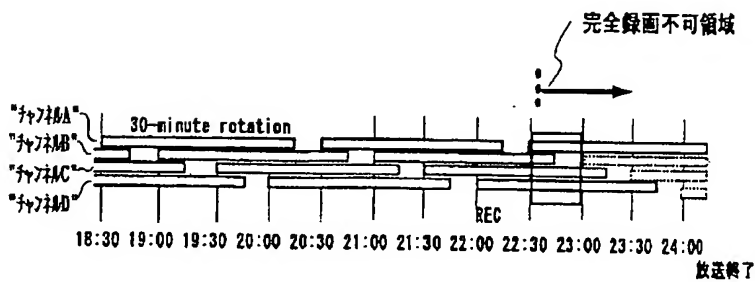
【図6】

関連情報名	タイムフト放送 (NVODサービス)	スケジュール
番組名	映画名	青い青春
解説等	出演者名	斉藤花子
	監督名	山田太郎
	概要	青春コメディ映画
チャンネル	開始時刻	
A	18:30、20:30、22:30	
B	17:00、19:00、21:00	
C	17:30、19:30、21:30	
D	18:00、20:00、22:00	
放送時間帯	17:00~22:30	30分毎
時間短縮記録	可能時間帯	18:30~23:45

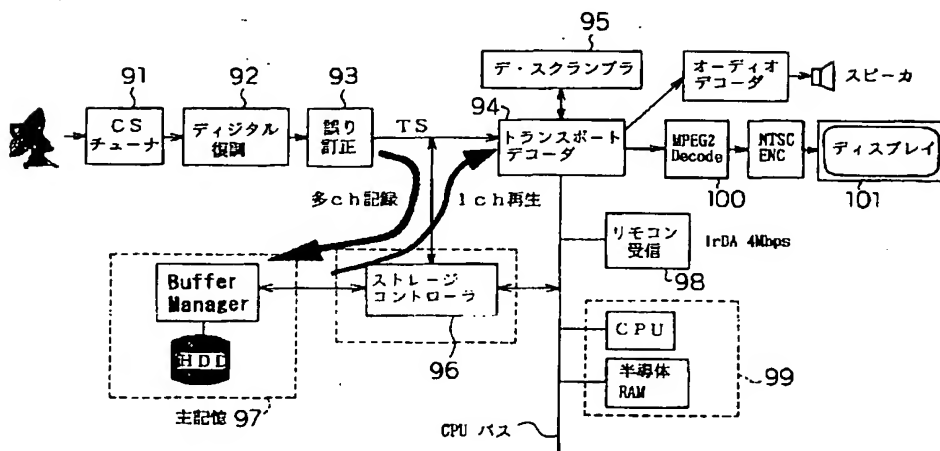
【図7】



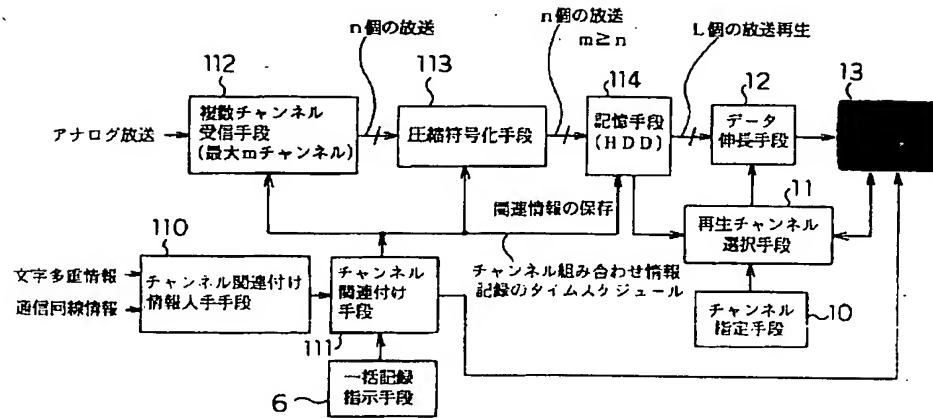
【図8】



【図9】



【図10】



【図11】

